

ここまでできる！ 産婦人科外来での排尿障害診療

企画者のことば

小谷泰史，松村謙臣

女性の外来診療では，月経異常や更年期症状，不妊相談，婦人科がん検診といった訴えが中心となりますが，実は「排尿に関する悩み」を抱えている患者さんも少なくありません。尿もれ，頻尿，残尿感，繰り返す膀胱炎…。こうした症状は命に直結するものではないため，患者さん自身も受診をためらいがちであり，「どこに相談してよいかわからない」と感じているのが現状です。

2014年に国際的に提唱された「閉経関連尿路性器症候群(GSM)」という概念は，日本でも少しずつ知られるようになってきました。しかし，実際の診療現場では依然として十分に対応されているとはいえません。患者さんは日常生活の不快感に悩み続け，生活の質(QOL)を大きく損ねています。

産婦人科外来は，女性にとって最も敷居が低く，気軽に相談できる場です。だからこそ，産婦人科医が排尿症状や泌尿器関連のトラブルにもしっかり向き合うことは大きな意味をもちます。もちろん，すべてを自分で診断・治療する必要はありません。初期対応や簡単な検査を行い，必要に応じて専門医へつなげるだけでも，患者さんにとっては大きな安心につながります。

本特集では，排尿機能の基礎知識や外来でできる簡便な評価法から始まり，骨盤臓器脱や尿失禁，過活動膀胱，繰り返す膀胱炎，GSMなど，日常診療で遭遇する機会の多い病態を取り上げます。外来でどこまで対応できるのかといった実践的な視点を重視しました。本特集が，日々の診療にすぐ役立つヒントとなれば幸いです。